

全連退への30年度加入状況調査の結果について

平成30年8月現在

平成30年度の全連退加入状況調査の結果をお知らせいたします。今後の活動や会員の入会等にご活用ください。調査にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

1 30年度までの会員数・会費納入人数の推移

年度	会員数	会費納入人数	差	災害・免
平成23	100,588	92,678	-7,910	1,027
24	92,606	92,275	-331	685
25	94,327	91,532	-2,795	420
26	93,799	90,532	-3,003	200
27	91,636	89,625	-2,011	200
28	93,769	89,322	-4,447	200
29	90,959	87,754	-3,295	200
30	89,853			

*会員数は、各年度8月末の会員数

*30年度の会費納入人数については、現在は未定

2 29年度末退職者の入会状況

- ・全退職者数 5,485人、うち入会者数 3,841人 入会率70%
- ・入会率85%以上の県(団体) 22県(団体)
- ・地区別入会率

	27年度	28年度	29年度	30年度
北海道地区	42%	36%	29%	27%
東北地区	77%	78%	81%	78%
関東甲信越地区	70%	68%	69%	64%
東海北陸地区	87%	77%	86%	91%
近畿地区	55%	54%	63%	45%
中国地区	81%	79%	80%	80%
四国地区	92%	98%	93%	87%
九州地区	85%	85%	87%	85%

3 途中入会者、途中退職者、逝去者について

- ・29年9月～30年7月末の途中入会者数——78人(昨年85人)
- ・同 途中退会者数——1,236人(昨年1,753人)
- ・同 逝去者数——907人(昨年1,154人)

4 準会員・賛助会員の制度

あり——17県(団体) なし——38県(団体)

5 「入会のお誘いにあたって」に関して

(1) どのような手立てを講じたか

- ・ 自県の会報、全連退の会報・情報等の活用や、入会案内の配布等
- ・ 現職校長会との交流（教育懇談会、情報交換会、懇親会等）
- ・ 退職予定者への学校訪問・戸別訪問（本部、支部事務局）
- ・ 人脈を生かす
- ・ 辞令交付式等公式の場の活用

(2) いくつかの事例から

- ・ 各支部における「勧誘の手立て」を交流し、効果を高めたい。また、未加入者が65歳になった年に再度入会を働きかけるようにしたい。（北海道）
- ・ 学校の教育活動に積極的に参加し、退職校長会の活動の意識付けを図っている。会報発行への現職の協力の機会が、理解につながっている。（秋田）
- ・ 現職校長との実践発表会・研究協議会を開催し、交流を深める。また、「ホームページ」を充実し、日常的な広報活動に努めている。（埼玉）
- ・ 現職の校園長に「現職会員（会費は無し）」として勧誘をし、退職後に会員に移行する取組をしている。（奈良）
- ・ 退職前年の夏に退職者を確認し、以後3月にかけて学校訪問、戸別訪問し、入会勧誘に努めている。（和歌山）
- ・ 退職辞令交付の日の昼食会に参加して勧誘。日常的な学校ボランティア活動の中での啓発。（福岡市）
- ・ 「新会員予定者との懇談会・懇親会」を1月から3月の間に開催。案内状は役員が持参し、本人に直接連絡する。（熊本）
- ・ 現職校長会との定期的な連絡会を開催。また、会報を全員に配布。退職後の再就職の支援。（鹿児島）
- ・ 再任用制度等により、「定年」にかかわる状況や意識が変わってきた。それに伴い退職校長会への加入意識が低下している。このことへの対応を工夫する必要がある。

（東京・香川）

《訂正とお詫び》

全連退情報第162号の記事の中で、文部科学副大臣のお名前を「浮島美智子」と表記しましたが、正しくは「浮島智子」でした。お詫びして訂正いたします。